へ遠13
1.999
5止

13
1999

一休法圓相記　巻之上　目録

第一　一休如何に法を説とし給ふ事
第二　武人和尚法を問ふ事　付　一休答へ給ふ事
第三　一休遊世を忘れ給ふ事
第四　同安乃なんぎとすひ給ふ事
第五　同じく猫を抱き給ふ事
第六　人〻人〻をらくいふ事
第七　武人一休に問ふ事　付　一休答へ給ふ事
第八　一休おどり給ふ事

堀安

第九　中よりぐるとしていのまま

第十　狂人一休は天道のいろれと問まま

第十一　だいり女房のまま并一休義化のまま

第十二　一休清水清のまま

第十三　同風呂のまま

第一　一休初の狂は漢より始まる

○狂人の左流は狂と書くりひきろぐさんが
くていいてなりてまりひ。さんが人はもの字れいそ
是は一休と狂人のくじらくじらくくく

何ていとをしがるまでいとをしがるまでは
ムカうちよりは何ぞあるへき
とうやうはかさく語りろ。ひとへとをなとと語れ
くしそうをしれ以後(のち)遺(のこ)今よりあらくぶるうちや
うはうなしらはるとうや

第二　武人我慢よりは法度出しけるまゝ一味そへ
ひきし語ふます

○さる国あるよ何ぞもあるうざる邪(じゃ)氣なる男あるもち
あるけさへ分代よ語くしそぶるうぶあそなぶ語
よ下へ落くしたらぶまるれまくといとをしくぶる
てうへはるよ法度うさとしくらぶるぶよ
一色つしひをてなるいとをぶうのう
一つうひたとうまうひをとうの
一とんいとうとうらひうまう

とうやふうきうく丘とさきらある時一休とよ仏ぶ
ほのぶ物ちうく一休ちうる何とこと乃物てあ
ろぐーきれとうさ丘法わまいとくへ乃ち何とか
さうとく法ちう真ちなりくとちうこ一休物しく
物ひ法ひてぶうくうちりさ丘ようくかうこへらし
西門らひくたの一文ちもへつうく
まりしさ分これそんやとをし
かくいひくひそこにおしまもちうくうまうち

第三　一休教心丸法問乃事

○法陽まある通世じやあるとうくきそんなの入をんの
唐へこげひゆきぶそじめうく
もうおうーやう高乳うくいるいあまこうも御
四りかく四ままりなくどいた月乃まわしかさ
物うく御ぶうるくべきうーよぶいどすかうく

ちやう門病中乃うーいたびなりちうーなぶしぶ丘ぶ
らいたぐんぐんま入ちうーうーうーを門ちうーを一休うるされ
そうーうくあのちじさといいなーを物をくーちうとお
ちいまんもいうーをとぶひて屋うく丘ちくいめ物法
ぶひどうどりを四いぶそれぶいらく屋ちまりちこ
じうすうくひぶ夫法乃法門をもうをつじくうけ
こ酒いうくいぶうまども御ちうへすうーふうんを
乳ひしくくぶそんーまいうぶ一休いぶちうんだーい
やぶうれうへ墨法乃分うくんどいうはつかうーや
もちうと物くざるわ四うーちうどうふくぶ春ーうんと
とハ物りひもうーざうまを丘とのうまーぶを時しやう
乃いうくいうれとうを丘草本法御　一休巻云乃事
和仏ちう沙ら和仏とちうるや　ふうんをいーやうを物仏
いうるうれうちあう　一休なんちうんちうへとうへ

浮ふ時やうくひどうず所にしてうそう船ふの船
れとも云ふ〻ひしくなんそや和と称るまち海ゐも。
たらんで商用の黒船とあるそひ。えんうが月とのの
でひよくもふうぞし通人といひて生死の一
大事とゐまりくひしつもんをとくんとそろと
こそ通へといひてべきよ。その道ぐんつとくんさるず
して外とりこゐんといふ。ゐしさうてそろのしけり
第二　北女一休よなんさとすくるま
○嬉形　大原とゐ和よ。ゆるりや為ゐまとりのを。
ひさうく京都ようすきるろ。京ゐ生国なを
たまくさ中ようつりくくとくくとけるろ。京ゐ西へ下
つまさ海ようまとくくひくくるびゐ京くくゐ初ん
ゐ浪しける男つくさうつ。ぴうくたるとくくひさ
ぴいとゐくかくひゐりゐくひそれん

らすう男ゐる時ゐまくさうゐもつゐりもるとれくく
和いひひりなまこどちくくなくくたまれくそとと
ひやとおりりよたのひべらくつもなくくてぴ西い
うらそびくまりぴう一休ひ為ゐんゐまくし
ましよ。屋くくおくしやくをくくくくくいく
なりくゐひくぴんつゐゐくもとえいどくぴう。
いくゐ門そんどつくくりくそしけどうゐ
ゐよひくれいびゐをくうくる酒ゐくまくもやくけり
いくくよくそ浪ゐくまくゐ門ら山んけてくく
まつつ。つゐよくくなくくゐ時ひけくこ掛くくくう
ゐくくゐくもなくぴつゐりゐくゐくりなやぴゐ
まどくも余人つよまくくぴもゐくくゐよゐゐつ
くくゐつうくくくくいゐ浪くりゐくくはけりくくま
くまくうんとくくくくまくぴ女ゐくまくふうくま

よりひてぞ[illegible]の月かゝ[illegible]とうらを決るよ
[illegible]なるこゝろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちくねさそらぶ男うちもねざりくぬさそらと
ぢひ大さまは自慢（しまん）ねーさくりとぢわらぬ
しやう。梅さたぐ今の男いさんなさまとちろりの
ゑ。さわくつさとばぬびーさぬゆまざき
くさまさーさくわくぬりんの後とわさくぬそ
もくさーかざるとわくぢりさくい世まらづし
きいさりのおはーそいかり大さんもつべきさと
さまさひさぬやうのつーさまをさいさま
いりんさくさるーさるぬあわくおぼーさく。
こ後くさまさひ沼よそれいぢりうさたなら。
さまは世間の人利やうのんりさぬまはあまーく
利ぢを知りわくよぬんぐさの通花（ぢり）もんーどぬ
うらひの吾累ささまさ（ざりさぐーいなぐ。
男ひのさるーおりらくぬあるのさのやりど

あるとて　あるる　ものゝ　なくて　なげくぞ　ひけの
いのちの　あるかぎり　ひとの　なげくぞ

一休　ものゝ　なくて　なげくぞ　ひけの
いのちの　あるかぎり　ひとの　なげくぞ

夫　ゆゑん　物　なくて　なげくぞ　ひけの
とて　ひとの　なげく　物　なくて　なげくぞ　ひけの

ものゝ　なくて　なげくぞ　ひけの

貴公　人の　人の　なげくぞ

ある　人　一休　ま　問云　世中　の　人の　ものゝ　なくて　なげくぞ　ひけの
なげくぞ　ま　いの　成　ま　ゆゑん　分　なくて　なげくぞ　ひけの
なげくぞ　ひけの　ぞ　い　庵　ま　なくて　なげくぞ　ひけの
なげくぞ　ま　なくて　なげくぞ　ひけの　なげくぞ　ひけの
なげくぞ　ひけの

ひとりの子一人ありけるを
を紙をくるまにあるすーしく
とうをとらふいてーしひ
らへく手をせんとうの
力人ゝをおほくゝ人ゝ
ゝをひらめごとに花子花子百あまりさゝまて
もとらもーしへくゝ
らまはゝせよあくゝ
そこへまゆんぴらも
一ぜん一ぜんくも
るにすぐもてあらがく
はくゝをめくゝ
たゝひもら

一体国菜とりひろえ

○あるゝ人一体へ手をりかゝ
へむかぢーさは
ゆをとりたゝ
いつゝぐなり
も何まをゝ
すむるなゝ
ゆゝ法ひゝ天
文武国ゝ
ゝとゝもゝ
ゝくゝ
ゝくゝ
くゝ
あゝ

一体へ手をりかゝ
へむかぢーさは
ゆをとりたゝ
いつゝぐなり
も何まをゝ
すむるなゝ
ゆゝ法ひゝ天
文武国ゝ
ゝとゝもゝ
ゝくゝ
くゝ
あゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一せん人のもとへ一えぐれよなりわいぢんがぬのそ
ひまもぢいぢんくいやくいるくもぢいくぢ
ぢまくくくぢさたてくぢるぢ人くくぢをあくとそ
へくくくくりそりぢさうくの人のくくくもとうくぢ
ひまりりくくりまりりぢ

第八　一休とどります

○はち七月十六日の夕ぢくくくびあぢりのあくさ
文ちくまりの男一あ人ぢやういいぢやくくぢ一休の
くくへゆくさ和をぢくなぐさ四んどくくぢ一人ぐやくう
さんをまりくもあくうよぢんずりくちぢくくそりお
くくくくりの和くもりくくうれぢくうくの
りぢおまびぢくくまひたくくくくいそう
くくかさんりりくくくぢりりまくくりぢぢ
の一休りまりくくくぢ伊のくくくくくあくまくり

て流涙なりとくぐつやさぐ
りさとおされくまよりう
ちつすのまつ一体をそくそ
ばとのまられずよびふぐ
ぐつだうすくちぐりてす
とくようすいがちろうこさ
やくくよろいがそてびわ
がくとぐちうを向まんた
りのよそれるるひりのそ
ひぐくとりくなまばか
さみりでとなぞきぬそれ
うまでぐらうが分ゆまりてあくれ
くいうづまひまいちづまぐ
ぐやとゆづまあくぐ遊ぐんりの
へまりぐまんぐやうの郎くいゆたりみよりくのん

くくと郎ぐつおさめ治ひろくぐんくくもとんて
個くに仕ぐうりをひきうくくぐ見ぐくりぐこ
りのまうぐ一くんおり治くくくくひくくり
いさくくぐ山郎ぐりくさんぐ町ぐいぐくどんぐ郎ぐもも
国ぐりよんぐ一体ぐんへくりくくくくくぐ下ぐんと
つ巴治ひぐくと巴ぐんりの人ぐくくぐくくりぐ
まぐ一体りのちゃくぐくうりぐんりくくくくぐ布などを
つきんぐくこのくくるりくくくとりぐくりのんくすあぐん
りひゃくくんとぐりりゃりくくくくりりりくさ
ぐいい門前りの表ぐくりんぐりあぐりりゃくぐくぐとう
治ひくぐくりのりくめくくりりくくくりりくおりりくくくぐとど
つといあぐくくくくりりぐ文町あよりくくくぐて
くくくくゃくりりぐりりなりくくくくりりりりりく
家と四んくくとどぐくりあくくりりりりり

ひとごろしなどよりそなたの法ぶつをもらうんだとあの
しゅもつをかれよりなんぞつうくいこ
ろびうもと法人しゅ出もらうふたつうじゃおけとぐも
とこうそうじゃなるくせまよりかのがすまいりまず
よりたまりおのくそりいまいまいまて
よりたまりおのくにそぎぬいくそんまとひ法をそく
うそうもそうもそうたまりつきくわかうへいひつ
くとなくえいひくくく

ぬようのこゑてぬぞれいへどさうつと居しぶれお泉の
おあいあさぐんなりこもかしうへいる酒と飯の
ようさぐいとくよりかうこはいとをまぐずいハゆん
も門ぶもんわきとたちんうにいりりまろ一休しわい
さ酒とんあひさうてもくを方ひぐんさかはそろ
しーさんうるそるかこうやうぬんくらいのこるかし
なくねる酒ハこそこるかくいふこいふ泉ちんなるよ
けうくぐそんしくおこやまこそなこさいりのうぐさと
こひ酒ふかいくそるぐいくこびしうこそろまが
よ間ーまとまこいひくおめさちやるよりぐんの
ゆうるへうかこはしくぐこうこ今のあうよるそうこ
まぬそまこりのうーさとうこうこさうこさ
ーーとはりへぐふーーさあまいけしなーぐ紙ぬと
とちへぐありがしとちへぐありこれぐありこ

なこうにもあーぐぬ酒くわろ河の中ようぐうとこう
わぐいるこさうこいたろれぐぐぐへるとるへてけけ

廿十　武人一休よ天道のいそしと問ふ

○ある人一休よ問ふ何と申ぐ天道とはいかゝ
とこの心ハ日もち月もちなどともいぐん
こゝひぐ今よいろまぐ一門うくぐもつかひち
とはもふもなくぐつくくとぐこぐのう
ほぐーこんぐたくて後ぐしやうとうひぐさとだのりく
はりかぐりとたちもてあんぐもぐくちるのるか
くねいくるうるうそこのや　一休ちんくいそくぐそこい
そう方ぐおもーずこいておなちぐくいい和尚まこと
天ようとうちすてて余ぐのんるるとる天道とのさ
とこーーくぐハりりりやをいくさう酒なぐこ

きょーくらうまひ。さそぐ
くぐさ。ごさにも。へくおま
よ。へつさぐーくとも。ぐ。つ
をのおえくうなりとも。ぐ。ゆ
さんぐ。ひ。方の。えくうパ。ず
和よ。へくを。ひ。せぐくそ。へ。
ま。へを。ひくりなんぐ。ろ。く
もうのくぐひ。わっぐ。だ。そ。
道よひ。くこのくとうのくぐ。
なくをやうまえ。わ。ぐ。ぃ。う
もりくぐ。ちおもぐ。ぐ。へ。れ
門周なっぐ。何時。ぐ。も。わ。
とぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
てんーくぃ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

日乃ひらもとゆ御所乃門乃法ゆりかてしくてて
んじてくそてらてをを

第十一　たいら宮のすけ一休義化乃事

○家よだいらこらう流とうとうとうとうて女房二三人
つまとうもの亀とうとうてすぐつかうなる
中よりすくすくけうら女房乃ようさまやあいい
とうんくくうとうとうとれをんもぬまてえつぐよいと
まをなさるあまをてまくくくやいてんまさるあてく
ーーぶんわてあれいびいびいるよ
うらへとんぶあひまうくあしにもあ
和しいひまあうさあなまひ仏乃通し猫てふうか
しいふよまぶうーのあてしあくあうこあ
かうてんあくをいうよかこうをいうをゆてまい
まんうくなりうくらねしやいさくとそうまを

一休乃庵へまりをうわうれあいてをを法ひうこ
てまうり法へはうあそれまうてくまう法へくく。
おくまをうあうあうてくまあ法ぐまあ法さ一女本沸
のあびくさくあづくを文くくくうあうあくさて
乃毎びまあうをよりやうあうあうあくさ
しびが風ようあうまてくくなり。第一ハ天下よりまを
もなさ。三条どとうあうくうあうあ女乃ひわ
ひくくく。本沸乃ひくくの八門くうくんふふし
月乃あよ。三条くくくやあ乃。沢良酌くくうあんださ
まよわのくう付なくうあうあうてくくくくくくくひくと、
くくへくおくくけうあるずいい田条乃うあやあくくれ仕
をくうるまとくけうびいどを法乃ぐあくをいしやうか
つくくくをを門くをひけうくいを法ひあくくいを
へくくををしけうくうくさ女房すくくあくそ門じる

もまるぐまるうすぶかの子細うくはいどぶ門らんぜーう
まいはどくぶのもとうさ女の方ゑそんもとうさ女ゑ
ぐんぐらふーうく佛と稱ぐふるすもなーぶ門うん
らたちーうたわひ。浮世のまとひ者ーせうくそんん
ゑまるくまいりてひうやすく仏よなう道とまめ活
へーうそんぐ。わるうくすひーうんひんへうお佛のミ
ちとお稱うんしおぐーわうくいぶまぐうんぐらうとと
てーぶひうんとうんーうーうくおめうりやまぶ樂ぐやぶ
ぐうぐおいふうすいなとうーうへ活ふうぐひならぶ
とけりへうちとけ門うぐ佛なりぶーふ
門いちぐくなり家とりけーうくあんぐるぶ。一りうーうこお
くりうーうぐんなりぐやめんういとやぶうくーうぐて
へうてーうはおちーうた地ちまひーうもやぐんへあう
らふーうもうてとうーうくぶ門めんへうまーうふーうもうんへ

ぐそうぐまるくあてありぶーぐやあんぐうんとすめんを。
まうーうさ女りうとおうくぶとうーうくとうーう活ふとぶうまに
らーうーうりうう女房のもとりたうーうなぶ面ぐうーうこぐ
ぐうりやぶうりうーうやーうひうーうりうーうくぶみかうりうーうま
うくおりうくとうーうておうくしぐ。おぐんもうーうりうーういで
らまうーうくうぐ女あるぐていうりめーうーうぐ女うーうーうりぶます
のあんぐんとうーうこめうーうくーうりぶあーうーうふとんとうーう時れ
りてとうーうるまーうことうーうーうぐすぶ。へ世とりーうぐ世とりめへうどもを
りぐうらめーうぐんうーうんうーうやうーうぐーうやうーうくすめーうまかい
稱うんうはへーうぐうもとーうおーうぐ。あーうーうまーうとうーうそーうかめーうまけーう。梅
うー日うの當ぐうーうーうぐうーうーうぐ女ーうくーうーうーうーうーう人ーう。
うぐ稱ーうかい世間ようーうーうくーうーうーうーう

ゑんぎさんれうぢん開ます わるもの
ゝ小ぐ今ゝゝゝゝなくゝぬどらゝゝゝゝ
ゆりどゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
御ぢうやゝぼうぞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

廿七ノ一 一休清水詣のまき

○一休さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きぢよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふくさとこうと世界のまうん中ちいくだぐらい
ふとわらびかくうとかくうとかくうあるあるあるあ
そぐしくぬりとそるおしあるぬしみるふ伊勢
けさうなるうけがうまそてそるほどよんの
きまんとうとひれてあるくくけるかどもや
うてひるふすのとけやどりそこふちにあるあいお
やしねうしあるのまるうまくこ一人いあるるよりとさ
あげ前ますのとひけうりうくどけさんとすまども
きけまうのぷるるくくこけるとそどなるくくさう
しどるぬしくくうるるそ屋うくくるるひさ
るるすり見れるるくくどにどけるるひけどし男
大きにせるぷやうそくくとうるどりすてたくどねぎ
よさどれがぷあくくとせんくくそどるるほよ一けしまると
いるくう孫どぬまんくぐるるほどふく

いけのまんくふぐくるるまだ男あるう
くくるおまるるまるわくるまるくけのおくとけ
くあどぷるるくくまるくるるるるるるるる
くやまひるんだくあげくくるどなくくあるくるそれ
くるくるくくあるくくあるるるくくくくくくくる
くくくくくくくく

くもりのなかるべしとぞ
夜ふけていとすさまじかりしかばとぞ
うんじきこゆ

第十三　一休風呂へ入事

○ある時一休ほうこうにてとうびしたるに
五なんどぬいとくしくあく
もいてくこやぐこうぞくにんまりてやぐもんにて
や風呂うなふふらもくぬとてこびも
ふくうくまばやつくぐくふくくふつくも
ぬはほうんくこうあくこうお風呂ふくやくさんくぐくまく
ぬくくぐぬ月ハゆくくくこ五おもゆこいくぬ
月ハくくく

世ゝ風呂とうくのもの蔵ぞうの
そらくしやうくしうりぞ人うまてしぞふきうくと
られぞ梅くゆうしきぞふきうくあれくうかと風ぞ
ものうくうきぞてうらうあらうあくいうかぞ
やうくうくいうきとうくうくいかぞ
体いやそれくくもぐあうくあ屋ういくてんわうまくく
うくぞうくうくしやうくくうくやうい会丘ねま
くくぞもぐうくくやうかうくうかすうくもなくぞのか
くくといくくもひぞかよおほへいかれぞりあくくやく
なうくうくぞあうくうくうくぬまくなうあくくぞくいぞ
あうくあくぞあうくあくあくあくくあくくあくくあくくあ
くくくくうあうくくく